



日本電鍍工業 株式会社

代表取締役社長 伊藤 麻美

受賞理由

●会社経営の経験がない中、父が創業した会社と支えてくれた従業員を守るという強い信念をもって、過去の実績に拘泥することなく、倒産寸前の会社を再建したこと。

日本電鍍工業 株式会社

事業内容 金属めっき加工業

- 本社所在地：〒331-0823 埼玉県さいたま市北区日進町1-137 ※都内:港区
- 業種：製造業
- 創業：1956(昭和31)年
- 従業員数：63人
- 資本金：1,000万円

倒産の危機。
絶対できると信じ抜く「勇気」。

父が創業した会社と社員を守りたい。再建に向け社長就任を決断

当社は1956年に父が創業した会社で金属めっき加工を手がけています。創業者の父はいくつかの会社を立ち上げ、当社は経営幹部を担っていた社員が会社を引き継ぎ、当時は腕時計のめっき加工が売上の9割を占めていました。父は一業種依存に対して懸念を抱いていましたが、91年に急逝。当時の社長はその後も腕時計に固執し設備投資を行います。バブル崩壊の影響と取引先の生産拠点の海外移転などで、業績は低迷。2000年には売上4億円弱で、借入金10億円以上、さらに一部債権は整理回収機構に渡ってしまうなど、危機的な状況でした。

私は大学を卒業してから、ラジオでDJを務めた後、米国に渡り、宝石鑑定士の道を歩もうとしていました。99年、当社が倒産の危機にあるとの報を受け、帰国。会社の清算に向け話し合いを進めていました。しかし

会社の実情を知る中で、父が創業した会社への想いとこれまで成長を支えてくれた従業員やその家族の生活を守りたいという気持ちが強くなり、社長就任を決断しました。いざ着任すると、毎日のあいさつも無視されるほど、創業家から来た社長を待つ環境は厳しいものでした。私はあきらめずに声をかけ続け関係を築き、社内風土の改革、資金繰りへの対応に取り組みしました。

社長に就いた時、決めていたことは決してリストラはしないということ。従業員がいてはじめて会社は成長します。生き残りをかけ、自社の技術を活かすことができる分野は何かと考え、健康、医療、美容分野にターゲットを定めました。

ある医療メーカーからカテーテルを先導するガイドワイヤーのめっき加工の打診が来ました。多くの社員が不可能と声をあげるなか「自分たちはできる」と説得し

鼓舞。2人が手を上げ、数ヶ月をかけなんとか開発に成功します。この体験が社員の意識と行動を変え、03年には黒字化、06年には金融機関からの借換支援を受け資産繰りも安定させ、18年決算では8億円まで売上を伸ばすことができました。医療、楽器、電子部品、宝飾、時計と、一業種一社のみには依存しない多品種少量生産をさせることができました。

これからは100年続く企業を目指し、人を育てていきたいと思っています。リーマンショックの時にも10名採用しました。また、16年には数億円かけて生産設備をリニューアル。「こんな時に国内で設備投資なんて」という声もありましたが、チャレンジをしないと会社は成長しません。次の世代にどうやって技術を受け継いでもらうかが課題。ものづくりの楽しさ、想像力の豊かさを次の世代に託していきたいです。



- 1 2016年に工場設備をリニューアルし更なる飛躍を目指す
- 2 100年企業に向け人材育成にも取り組んでいる
- 3 地域への貢献も重要な使命のひとつ。子供たちを招いての見学会は恒例となった

